

社団法人 日本建築学会
会長 秋山 宏 様

平成16年6月16日

株式会社 東京三菱銀行
頭取 三木 繁光

弊行京都支店旧店舗の建替計画について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、弊行京都支店旧店舗については、平成10年12月の仮店舗移転以降、貴学会より頂戴しましたご意見も踏まえ、建替計画の検討を進めて参りました。

今般、建替計画の方針が固まりましたので下記の通り概要をご説明申し上げると共に、ご理解ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 建替の経緯と理由

旧店舗は大正14年の竣工以来、弊行京都地区の基幹店舗として約80年に亘り、その機能を果たして参りました。

然しながら、今日の営業店舗としては不都合な点が多い上、設備の老朽化やスペース不足も深刻な問題となり営業にも支障を来す状況になりました。加えて、耐震性にも問題があることが判明したことから、抜本的な機能更新が必要となりました。

建替えの検討にあたっては、今後の金融サービス提供の場に相応しい機能を充足しつつ、旧店舗同様、地域の皆様に親しみを持って頂くべく下記の3つのコンセプト「都市景観形成への配慮」、「歴史的な場所の記憶の継承」、「まちの賑わい形成への寄与」を基に計画を策定致しました。

2. 建替えビルのコンセプト

(1) 都市景観形成への配慮

四条烏丸の交差点は近代以降、京都の業務中枢地区の中心として銀行建築が並ぶ、風格のある景観を形成していました。建物の建替えが進んだ現在も、整然とした建物が並び調和のとれた街並みを形成しています。

今回の建替え計画では、京都市景観条例に準拠し、外観・軒高・壁面位置等周辺の建物との調和に留意し、美しい街並みに貢献できるよう配慮した設計と致します。

(2) 歴史的な場所の記憶の継承

旧店舗は、大正 14 年の竣工以来、京都の代表的な交差点である四条烏丸の景観の一部を形成して参りました。

建替えにあたっては、印象深い旧店舗の特徴を歴史的な「場所の記憶」として、新しいビルに継承することを検討致します。

具体的には、交差点への正面性、石を主体とした質感のある外壁、深くシャープなコーニス、歩行者に対し親しみのある基壇部の表現とアーチ、などのモチーフを現代的な表現に読み替え、歴史ある四条烏丸の交差点に相応しい計画と致します。

また、現建物の歴史調査を行い、その記録を後世に残すとともに、重要な部位の保存活用も検討しております。

(3) まちの賑わい形成への寄与

旧店舗は、四条通りを中心とした商業施設が集まる賑わいのある立地に位置しています。

今回の建替え計画では、四条通りと烏丸通りに面して歩道状のピロティを設けると共に、1 階に商業店舗を配置し、まちの賑わいに配慮した設計としています。

以上